



通話転送

- [コール転送の概要 \(1 ページ\)](#)
- [コール転送の設定タスク フロー \(3 ページ\)](#)
- [コール転送の連携動作 \(23 ページ\)](#)
- [コール転送の制約事項 \(28 ページ\)](#)

コール転送の概要

ユーザは Cisco Unified IP Phone がコールを別の電話に転送するように設定できます。次のコール転送タイプがサポートされています。

- [帯域幅不足時転送 (Call Forward No Bandwidth)] : 帯域幅不足が原因で電話番号へのコールが失敗すると、コールが転送されます。また、公衆電話交換網 (PSTN) をボイスメール システムへの代替ルートとして使用する自動代替ルーティング (AAR) 接続先への転送機能が提供されます。
- [代替宛先への転送 (Call Forward with Alternate Destination)] : 電話番号と転送先へのコールに応答がない場合にコールが転送されます。最終的な手段としてコールは代替接続先に転送されます。このコール転送タイプは「MLPP 代替パーティ接続先」とも呼ばれます。
「」
- 不在転送 (CFA) : すべてのコールが 1 つの電話番号に転送されます。
- 話中転送 (CFB) : 回線が使用中であり、設定されている話中転送 (CFB) トリガー値に到達した場合にのみコールが転送されます。
- 無応答時転送 (CFNA) : 設定されている [無応答時の呼び出し時間 (No Answer Ring Duration)] タイマーが期限切れになるか、接続先の登録が解除された後で、電話が応答しない場合にコールが転送されます。
- カバレッジなし時転送 (CFNC) : ハントリストの電話番号をすべて使用したか、またはタイムアウトになった場合にコールが転送されます。カバレッジの関連ハントパイロットにより、最終転送に [個人の初期設定を使用 (Use Personal Preferences)] が指定されます。
「」

- [未登録不在転送（CFU）（Call Forward Unregistered (CFU)）]：リモート WAN リンクの障害が原因で電話が未登録の場合にコールが転送されます。また、公衆電話交換網（PSTN）経由での自動再ルーティング機能が提供されます。発信者のタイプ（内部または外部）に基づいてコールを転送することもできます。
- **CFA 接続先オーバーライド**：コールの転送先ユーザ（ターゲット）が、コールが転送されるユーザ（開始ユーザ）にコールを発信するときに、コールが転送されます。ターゲットにコールが転送される代わりに、イニシエータの電話で呼出音が鳴ります。

不在転送（CFA ループ防止と CFA ループ ブレークアウトを含む）

不在転送（CFA）では、電話ユーザが1つの電話番号にすべてのコールを転送できます。

CFA は内線コールと外線コールに設定できます。また、コーリングサーチスペース（CSS）を設定することによって、ボイスメールシステムまたはダイヤルした接続先番号にコールを転送できます。Unified Communications Manager には、CFA 用の2番目のコーリングスペース設定フィールドが含まれます。CFA のセカンダリ CSS と、CFA の既存の CSS との組み合わせにより、代替 CSS システム設定がサポートされます。CFA をアクティブにすると、CFA 接続先の検証および CFA 接続先へのコールのリダイレクトには、CFA のプライマリ CSS とセカンダリ CSS だけが使用されます。これらのフィールドが空白の場合、ヌル CSS が使用されます。CFA のプライマリ CSS で設定されている CSS フィールドと、CFA のセカンダリ CSS のフィールドだけが使用されます。電話から CFA をアクティブにすると、CFA の CSS と CFA のセカンダリ CSS を使用して CFA 接続先が検証され、この CFA 接続先がデータベースに書き込まれます。CFA がアクティブな場合、CFA 接続先は常に、CFA の CSS および CFA のセカンダリ CSS に対して検証されます。

Unified Communications Manager CFA ループが識別されると、電話での CFA のアクティブ化を防止します。たとえば、電話番号が 1000 の電話でユーザが [不在 (CFwdALL)] ソフトキーを押し、CFA 接続先として 1001 を入力し、1001 がすべてのコールを電話番号 1002 に転送し、1002 がすべてのコールを電話番号 1003 に転送し、1003 がすべてのコールを 1000 に転送する場合に、Unified Communications Manager はコール転送ループを検出します。この状況では、Unified Communications Manager はループが発生していることを識別して、電話番号 1000 の電話での CFA のアクティブ化を防止します。



ヒント 同一電話番号が異なるパーティションに存在している場合、たとえばパーティション 1 と 2 に電話番号 1000 が存在している場合、Unified Communications Manager はその電話での CFA のアクティブ化を許します。

CFA ループは呼処理には影響しません。これは、Unified Communications Manager は CFA ループブレークアウトをサポートしており、これにより CFA ループが特定されると、転送チェーンの電話番号の1つで CFNA、CFB などの転送オプションが CFA とともに設定されている場合でも、コールが転送チェーン全体を通過し、不在転送ループを抜けて、ループが予期されているとおりに完了することが保証されるためです。

たとえば、電話番号 1000 の電話のユーザがすべてのコールを電話番号 1001 に転送し、1001 がすべてのコールを電話番号 1002 に転送し、1002 がすべてのコールを電話番号 1000 に転送すると、CFA ループが発生します。さらに、電話番号 1002 では電話番号 1004 への CFNA が設定されているとします。電話番号 1003 の電話機のユーザは、電話番号 1000 をコールします。これは 1001 に転送され、1002 に転送されます。Unified Communications Manager は CFA ループを識別し、そのコールがループから切断され、電話番号 1002 への接続を試みます。電話番号 1002 の電話のユーザがコールに応答する前に [無応答時の呼び出し時間 (No Answer Ring Duration)] タイマーが期限切れになると、Unified Communications Manager はコールを電話番号 1004 に転送します。

1 つのコールについて Unified Communications Manager が複数の CFA ループを識別することができます。この場合、各ループが識別されるたびに、コールの接続が試みられます。

コール転送の設定タスクフロー

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	コール転送のパーティションの設定 (4 ページ)	管理者は、設計基準と要件に基づいて、特定の番号へのコール転送を制限するようにパーティションを設定できます。
ステップ 2	コール転送のコーリング サーチ スペースの設定 (6 ページ)	管理者は、設計基準と要件に基づいて、特定の番号へのコール転送を制限するようにコーリング サーチ スペースを設定できます。
ステップ 3	ハントリストが使用できない場合またはハントタイマーが期限切れになった場合のコール転送の設定 (7 ページ)	ハントが失敗したときにコールを転送できます (つまり、ハントパーティが応答せずにハントが終了した場合。これは、リストのハント番号の電話が取られなかった、またはハントタイマーがタイムアウトしたことが原因です)。
ステップ 4	帯域幅不足時転送の設定 (10 ページ)	帯域幅が不十分であるために発信された電話番号へのコールが失敗した場合、代替ルートとして公衆電話交換網 (PSTN) を使用して自動代替ルーティング (AAR) の接続先に、またはボイスメールシステムに、コールを転送できます。
ステップ 5	代替宛先への転送の設定 (11 ページ)	応答されなかったコールは、電話番号と転送された接続先に転送できます。最終

	コマンドまたはアクション	目的
		的な手段としてコールは代替接続先に転送されます。
ステップ 6	その他のコール転送タイプの設定 (13 ページ)	CFA、CFB、CFNA、CFNC、CFU などの追加の転送タイプを設定できます。これらすべての転送タイプは、[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウから設定できます。
ステップ 7	コール転送の転送先オーバーライドの有効化 (23 ページ)	管理者は、CFA の接続先が CFA の転送元に発信したときに CFA をオーバーライドできます。これにより、CFA の接続先は、重要なコールがある場合に転送元に到達できるようになります。

コール転送のパーティションの設定

パーティションを設定して、電話番号 (DN) の論理グループと、到達可能性の特徴が類似したルートパターンを作成します。パーティションを作成することで、ルートプランが組織、場所、コールタイプに基づいた論理サブセットに分割されることになり、コールルーティングが容易になります。複数のパーティションを設定できます。

設計基準と要件に基づいて特定の番号へのコール転送を制限するためにパーティションを設定します。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。 **コールルーティング > コントロールのクラス > パーティション**。

ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックして新しいパーティションを作成します。

ステップ 3 [パーティション名、説明 (Partition Name, Description)] フィールドに、ルートプランに固有のパーティション名を入力します。

パーティション名には、英数字とスペースの他にハイフン (-) とアンダースコア (_) を使用できます。パーティション名に関するガイドラインについては、オンラインヘルプを参照してください。

ステップ 4 パーティション名の後にカンマ (,) を入力し、パーティションの説明を同じ行に入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を使用できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、山カッコ (<>)、角括弧 ([]) は使用できません。

説明を入力しなかった場合は、Cisco Unified Communications Manager が、このフィールドに自動的にパーティション名を入力します。

- ステップ5** 複数のパーティションを作成するには、各パーティション エントリごとに1行を使います。
- ステップ6** [スケジュール (Time Schedule)] ドロップダウンリストから、このパーティションに関連付けるスケジュールを選択します。
- スケジュールでは、パーティションが着信コールの受信に利用可能となる時間を指定します。
[なし (None)] を選択した場合は、パーティションが常にアクティブになります。
- ステップ7** 次のオプション ボタンのいずれかを選択して、[タイム ゾーン (Time Zone)] を設定します。
- [発信側デバイス (Originating Device)] : このオプション ボタンを選択すると、発信側デバイスのタイムゾーンと[スケジュール (Time Schedule)] が比較され、パーティションが着信コールの受信に使用できるかどうか判断されます。
 - [特定のタイム ゾーン (Specific Time Zone)] : このオプション ボタンを選択した後、ドロップダウン リストからタイム ゾーンを選択します。選択されたタイム ゾーンと[スケジュール (Time Schedule)] が比較され、着信コールの受信にパーティションが使用できるかどうか判断されます。
- ステップ8** [保存] をクリックします。

コール転送のパーティション名のガイドライン

コーリング サーチ スペースのパーティションのリストは最大 1024 文字に制限されています。つまり、CSS内のパーティションの最大数は、パーティション名の長さによって異なります。次の表を使用して、パーティション名が固定長である場合のコーリング サーチ スペースに追加できるパーティションの最大数を決定します。

表 1: パーティション名のガイドライン

パーティション名の長さ	パーティションの最大数
2 文字	340
3 文字	256
4 文字	204
5 文字	172
...	...
10 文字	92
15 文字	64

コール転送のコーリングサーチスペースの設定

コーリングサーチスペースは、通常はデバイスに割り当てられるルートパーティションの番号付きリストです。コーリングサーチスペースでは、発信側デバイスが電話を終了しようとする際に検索できるパーティションが決定されます。

特定の番号へのコール転送を設計基準と要件に基づいて制限するには、コーリングサーチスペースを設定します。

始める前に

[コール転送のパーティションの設定 \(4 ページ\)](#)

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。 **コールルーティング > コントロールのクラス > コーリングサーチスペース**。
 - ステップ 2** [新規追加] をクリックします。
 - ステップ 3** [名前 (Name)] フィールドに、名前を入力します。

各コーリングサーチスペース名がシステムに固有の名前であることを確認します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、およびアンダースコア (_) を任意に組み合わせて含めることが可能です。
 - ステップ 4** [説明 (Description)] フィールドに、説明を入力します

説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、山カッコ (<>) は使用できません。
 - ステップ 5** [使用可能なパーティション (Available Partitions)] ドロップダウンリストから、次の手順のいずれかを実施します。
 - パーティションが 1 つの場合は、そのパーティションを選択します。
 - パーティションが複数ある場合は、**コントロール (Ctrl)** キーを押したまま、適切なパーティションを選択します。
 - ステップ 6** ボックス間にある下矢印を選択し、[選択されたパーティション (Selected Partitions)] フィールドにパーティションを移動させます。
 - ステップ 7** (任意) [選択されたパーティション (Selected Partitions)] ボックスの右側にある矢印キーを使用して、選択したパーティションの優先順位を変更します。
 - ステップ 8** [保存] をクリックします。
-

ハントリストが使用できない場合またはハントタイマーが期限切れになった場合のコール転送の設定

ハントの概念はコール転送とは異なります。ハントを使用すると、Unified Communications Manager は 1 つ以上の番号リストにコールを転送でき、各リストは一定のアルゴリズムのセットから選択されるハント順序を指定します。これらのリストからコールがハントパーティに転送され、パーティが応答できなかった、または話中であった場合、次のハントパーティでハントが再開されます（次のハントパーティは現在のハントアルゴリズムによって異なります。）このときハントでは、試行するパーティに対して無応答時転送（CFNA）、話中転送（CFB）、または不在転送（CFA）の設定値が無視されます。

コール転送では、着信側が応答できない、または通話中で、ハントが行われない場合に、コールを転送する方法（転送またはリダイレクト）について詳細に制御することができます。たとえば、回線の CFNA 値がハントパイロット番号に設定されている場合、その回線へのコールに応答がないと、コールはハントパイロット番号に転送され、ハントが開始されます。

始める前に

[コール転送のコーリングサーチスペースの設定（6 ページ）](#)

手順

- ステップ 1 [Cisco Unified CM 管理（Cisco Unified CM Administration）] から、以下を選択します。[コールルーティング（Call Routing）]>[ルート/ハント（Route/Hunt）]>[ハントパイロット（**Hunt Pilot**）] の順に選択します。
[ハントパイロットの検索と一覧表示（**Find and List Hunt Pilots**）] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2 [検索（**Find**）] をクリックします。
設定済みのハントパイロットのリストが表示されます。
- ステップ 3 ハントが失敗した場合にコール処理を設定するパターンを選択します。
[ハントパイロットの設定（**Hunt Pilot Configuration**）] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4 [ハントコール処理設定（**Hunt Call Treatment Settings**）] エリアで [ハントパイロットの設定（**Hunt Pilot Configuration**）] のフィールドを設定します。フィールドと設定オプションの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 5 [保存] をクリックします。

コール転送に関するハントコール処理フィールド

フィールド	説明
<p data-bbox="381 359 1057 390">ハントコール処理の設定 (Hunt Call Treatment Settings)</p> <p data-bbox="402 411 1474 695">(注) [無応答時ハント転送 (Forward Hunt No Answer)]フィールドまたは[話中ハント転送 (Forward Hunt Busy)]フィールドは、ルートリスト経由でコールを移動するために設計されたものです。キューイングはルートリスト内で発信者を保持するために使用されます。そのため、キューイングを有効にすると、[無応答時ハント転送 (Forward Hunt No Answer)]と[話中ハント転送 (Forward Hunt Busy)]の両方が自動的に無効になります。逆に、[無応答時ハント転送 (Forward Hunt No Answer)]または[話中ハント転送 (Forward Hunt Busy)]を有効にすると、キューイングが自動的に無効になります。</p>	

フィールド	説明
[無応答時ハント転送 (Forward Hunt No Answer)]	<p>ハント リストを介して分配されるコールに対して一定の時間応答がない場合、このフィールドでコールの転送先を指定します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 無応答コールを転送しない (Do Not Forward Unanswered Calls) • 無応答コールを転送する (Forward Unanswered Calls to) <ul style="list-style-type: none"> • [宛先 (Destination)]—コールを転送する必要がある電話番号を入力します。 • [コーリング サーチ スペース (Calling Search Space)]—この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されるコーリングサーチスペースをドロップダウンリストから選択します。 • [最大ハント タイマー (Maximum Hunt Timer)]—キューイングを使用しないハンティングの最大時間を指定する値 (秒単位) を入力します。 <p>有効な値は 1 ~ 3600 です。デフォルト値は 1800 秒 (30 分) です。</p> <p>注意 関連付けられた回線グループの [最大ハントタイマー (Maximum Hunt Timer)] と [RNA復帰タイムアウト(RNA Reversion Timeout)] には同じ値を指定しないでください。</p> <p>無応答転送タイマーは、回線グループの RNA タイマーよりも大きくする必要があります。</p> <p>無応答転送タイマーは、回線グループの RNA タイマーの倍数にしてはいけません。</p> <p>このタイマーは、期限が切れる前に、ハントメンバーがコールに応答するか、ハントリストが使い果たされた場合に、キャンセルされます。このタイマーの値を指定しなかった場合は、ハントメンバーが応答するか、ハントリストが使い果たされるまで、ハンティングが継続されます。どちらのイベントも発生しなかった場合は、最終処理用のコールが受信されてから 30 分間ハンティングが継続されます。</p> <p>(注) ハンティングが [転送最大ホップ数 (Forward Maximum Hop Count)] サービス パラメータで指定されたホップ数を超えた場合は、ハンティングが 30 分の最大ハントタイマー値の前に期限切れになり、発信者にリオーダー音が流されます。</p>

フィールド	説明
話中ハント転送 (Forward Hunt Busy)	<p>ハントリストを介して分配されるコールに対して一定の時間応答がない場合、このフィールドでコールの転送先を指定します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 無応答コールを転送しない (Do Not Forward Unanswered Calls) • 回線グループメンバーの転送設定を使用 (Use Forward Settings of Line Group Member) • 無応答コールを転送する (Forward Unanswered Calls to) <ul style="list-style-type: none"> • [宛先 (Destination)] — コールを転送する必要がある電話番号を入力します。 • [コーリング検索スペース (Calling Search Space)] — この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されるコーリング検索スペースをドロップダウンリストから選択します。

帯域幅不足時転送の設定

始める前に

[ハントリストが使用できない場合またはハントタイマーが期限切れになった場合のコール転送の設定 \(7 ページ\)](#)

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[コールルーティング (Call Routing)] > [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)]。[電話番号の検索/一覧表示 (Find and List Directory Numbers)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [検索 (Find)] をクリックします。設定済みの電話番号のリストが表示されます。
- ステップ 3** 帯域幅が不足しているときのコール転送を設定する電話番号を選択します。[ディレクトリ番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** [AAR 設定 (AAR Settings)] 領域のフィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、[コール転送に関する電話番号設定フィールド \(11 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 5** [保存] をクリックします。
-

コール転送に関する電話番号設定フィールド

フィールド	説明
ボイスメール	<p>コールをボイスメールに転送する場合にこのチェックボックスをオンにします。</p> <p>(注) このチェックボックスをオンにすると、Unified Communications Manager は [接続先 (Destination)] および [コーリング サーチ スペース (Calling Search Space)] フィールドの値を無視します。</p>
[AAR接続先マスク (AAR Destination Mask)]	<p>外部電話番号マスクを使用する代わりに、ダイヤルする AAR 接続先を決定するための接続先マスクを入力します。</p>
[AARグループ (AAR Group)]	<p>ドロップダウンリストから AAR グループを選択します。これは、帯域幅不足のためにブロックされるコールをルーティングするために使用するプレフィックス番号を提供します。[なし (None)] を選択した場合、サーバはブロックされたコールを再ルーティングしようとしません。</p> <p>この値は、[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] から、[優先代替パーティ タイムアウト (Precedence Alternate Party Timeout)] サービスパラメータを設定することもできます。</p>
この接続先を不在転送履歴に保持する (Retain this destination in the call forwarding history)	<p>デフォルトで、電話番号設定によってコールの AAR レッグがコール履歴に保持されます。これにより、ボイスメールシステムへの AAR 転送でユーザがボイス メッセージを残すよう確実に促されます。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、コールの AAR レッグがコール転送履歴に残されません。</p>

代替宛先への転送の設定

始める前に

[帯域幅不足時転送の設定 \(10 ページ\)](#)

手順

- ステップ 1 [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[コールルーティング (Call Routing)] > [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)]。[電話番号の検索/一覧表示 (Find and List Directory Numbers)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2 [検索 (Find)] をクリックします。
設定済みの電話番号のリストが表示されます。
- ステップ 3 代替宛先を設定する電話番号を選択します。
[ディレクトリ番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4 [MLPP 代替パーティと機密アクセス レベルの設定 (MLPP Alternate Party And Confidential Access Level Settings)] 領域のフィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、[コール転送のための MLPP 代替パーティおよび社外秘アクセス レベル設定フィールド \(12 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 5 [保存] をクリックします。

コール転送のための MLPP 代替パーティおよび社外秘アクセス レベル設定フィールド

フィールド	説明
転送先 (Target、接続先)	ディレクトリ番号が優先コールを受信し、この番号とそのコール転送先の両方が優先コールに回答しない場合に、MLPP 優先コールを転送する番号を入力します。 値には、数字、シャープ (#) およびアスタリスク (*) を使用できます。
MLPP コーリング サーチ スペース (MLPP Calling Search Space)	ドロップダウンリストから、MLPP 代替パーティのターゲット (接続先) 番号に関連付けるコーリングサーチスペースを選択します。
[MLPP 無応答時の呼び出し時間 (秒) (MLPP No Answer Ring Duration (seconds))]	このディレクトリ番号とそのコール転送先が優先コールに回答しない場合に、MLPP 優先コールをこのディレクトリ番号の代替パーティに転送するまでに待機する秒数 (4 ~ 60) を入力します。 この値は、Cisco Unified CM の管理の [システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] から、[優先代替パーティ タイムアウト (Precedence Alternate Party Timeout)] で設定できます。

その他のコール転送タイプの設定

[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウから、不在転送 (CFA)、話中転送 (CFB)、無応答時転送 (CFNA)、カバレッジなし時転送 (CFNC)、および未登録の不在転送 (CFU) を設定できます。

始める前に

- コール転送機能が意図したとおりに動作するように、さまざまなパーティションの設定済みの電話と電話番号に対して、コール転送のコーリング検索スペースも設定することをお勧めします。そうしないと、転送が失敗する可能性があります。コール転送の接続先にコールが転送またはリダイレクトされると、設定されているコール転送のコーリング検索スペースがコール転送に使用されます。
- [代替宛先への転送の設定 \(11 ページ\)](#)

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[**コールルーティング (Call Routing)**] > [**電話番号の設定 (Directory Number Configuration)**]。

[電話番号の検索/一覧表示 (Find and List Directory Numbers)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウの [コール転送とコールピックアップの設定 (Call Forwarding and Call Pickup Settings)] フィールドで、CFA、CFB、CFNA、CFNC、およびCFUを設定します。フィールドとその設定オプションについては、[コール転送のフィールド \(13 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 3 [保存] をクリックします。

コール転送のフィールド

フィールド	説明
[コール転送とコールピックアップの設定 (Call Forward and Call Pickup Settings)]	

フィールド	説明
[コーリングサーチスペースのアクティベーションポリシー (Calling Search Space Activation Policy)]	<p>このオプションには、3つの値があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [システム デフォルトを使用 (Use System Default)] : コール転送に使用される不在転送コーリングサーチスペースを決定する [CFA CSS アクティベーションポリシー (CFA CSS Activation Policy)] サービスパラメータ。[CFA CSS アクティベーションポリシー (CFA CSS Activation Policy)] サービスパラメータを [設定済み CSS を使用 (With Configured CSS)] に設定した場合、不在転送コーリングサーチスペースと不在転送セカンダリコーリングサーチスペースがコール転送に使用されます。これがデフォルト設定です。 • [設定済み CSS を使用 (With Configured CSS)] : [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで明示的に設定された不在転送コーリングサーチスペースにより、不在転送のアクティブ化とコール転送が制御されます。 不在転送コーリングサーチスペースが [なし (None)] に設定されている場合、CSS は不在転送のために設定されません。パーティションが設定された任意の電話番号への不在転送をアクティブにすることはできません。不在転送のアクティブ化中に、不在転送コーリングサーチスペースおよび不在転送セカンダリコーリングサーチスペースの変更は発生しません。 • [アクティブなデバイス/回線 CSS を使用 (With Activating Device/Line CSS)] : 電話番号コーリングサーチスペースとデバイスコーリングサーチスペースの組み合わせにより、不在転送のアクティブ化とコール転送が制御されます。その際、不在転送コーリングサーチスペースの明示的な設定は不要です。 電話から不在転送をアクティブにした場合、デバイスをアクティブにするため、不在転送コーリングサーチスペースと不在転送セカンダリコーリングサーチスペースに、電話番号コーリングサーチスペースとデバイスデバイスコーリングサーチスペースが自動的に入力されます。 不在転送コーリングサーチスペースに [なし (None)] が設定されている場合、不在転送が電話からアクティブにされると、電話番号コーリングサーチスペースとアクティブにするデバイスのコーリングサーチスペースの組み合わせにより、不在転送の試行が制御されます。 <p>[CFA CSS アクティベーションポリシー (CFA CSS Activation Policy)] : 転送が想定どおりに動作するために、[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウでこのサービスパラメータを必ず正しく設定してください。このサービスパラメータの2つの有効値を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [設定済み CSS を使用 (With Configured CSS)] : プライマリおよびセカンダリ CFA コーリングサーチスペースによりコール転送の試行が制御されます。 • [アクティブなデバイス/回線 CSS を使用 (With Activating Device/Line CSS)] : プライマリおよびセカンダリ CFA コーリングサーチスペースが、プライマリ回線のコーリングサーチスペースとアクティブにするデバイスのコーリングサーチスペースによって更新されます。 <p>[ローミング (Roaming)] : デバイスが同一のデバイスモビリティグループ内をローミングしているとき、Cisco Unified Communications Manager はデバイスモビリティ CSS を使用してローカルゲートウェイに到達します。ユーザが電話で不在転送を設定している場合、CFA CSS が [なし (None)] に設定されていて、[CFA CSS アクティベーションポリシー (CFA CSS Activation Policy)] が [アクティブなデバイス/回線 CSS を使用 (With Activating Device/Line CSS)] に設定されていると、次のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • デバイスがホームロケーションにあるときに CFA CSS としてデバイス CSS と回線 CSS が使用されます。 • デバイスが同一のデバイスモビリティグループ内をローミングしているとき、CFA CSS としてローミングデバイスプールからのデバイスモビリティ CSS と回線 CSS が使用されます。 • デバイスが別のデバイスモビリティグループ内をローミングしているとき、CFA CSS としてデバイス CSS と回線 CSS が使用されます。

フィールド	説明
[不在転送 (Forward All)]	<p>この行のフィールドは、不在転送先として設定されている電話番号へのコール転送処理を指定します。[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] フィールドの値は、ユーザが電話から不在転送をアクティブにするときに入力した不在転送先を検証するときに使用されます。またこのフィールドは、不在転送先にコールをリダイレクトするときにも使用されます。</p> <p>次の値を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ボイスメール (Voice Mail)] : [ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウで設定されている値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。 <p>(注) このチェックボックスがオンのときには、Unified Communications Manager は [接続先 (Destination)] および [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] フィールドの値を無視します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [接続先 (Destination)] : このフィールドは、すべてのコールの転送先電話番号を示します。外部の電話番号を含め、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用します。 • [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。 • [転送の最大ホップ数 (Forward Maximum Hop Count)] : [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] からこのパラメータを設定する場合は、[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] を選択します。 <p>このサービスパラメータは、1つのコールの最大転送回数を指定します。QSIG コールについては特殊な考慮事項があります。着信 QSIG コールの場合、最大値は (ISO 仕様に基づき) 15 です。これよりも大きい値をこのフィールドに指定すると、指定された値は非 QSIG コールに適用され、着信 QSIG コールの最大転送回数は 15 回になります。QSIG トランクが設定されている場合、このパラメータを 15 に設定することが推奨されます。</p> <p>たとえば、このパラメータの値が 7 であり、(7つのホップからなる) 不在転送チェーンが電話番号 1000 から 007 で連続して発生する場合、Cisco Unified Communications Manager では、電話番号 2000 の電話ユーザが電話番号 1000 への CFA をアクティブにすることを防止します。これは、1回のコールでは7つを超える転送ホップがサポートされていないためです。</p>
[不在転送のセカンダリコーリングサーチスペース (Secondary Calling Search Space for Forward All)]	<p>コール転送は回線ベースの機能であるため、デバイスコーリングサーチスペースが不明な場合は、コールの転送に回線コーリングサーチスペースだけが使用されます。回線コーリングサーチスペースは限定的でありルーティングできないため、転送は失敗します。</p> <p>不在転送のセカンダリコーリングサーチスペースを追加すると、転送を有効化できます。不在転送のプライマリコーリングサーチスペースとセカンダリコーリングサーチスペースが連結されます (プライマリ CFA CSS + セカンダリ CFA CSS)。Unified Communications Manager は、この組み合わせを使用して、CFA 接続先を検証し、コールを転送します。</p>

フィールド	説明
話中転送 (Forward Busy Internal、内部)	<p>この行のフィールドは、電話番号が通話中の場合のこの電話番号への内線コールの転送処理を指定します。[接続先 (Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] フィールドの値を使用して、コールが転送先にリダイレクトされます。次の値を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ボイスメール (Voice Mail)] : 内線コールに [ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウで設定されている値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。 <ul style="list-style-type: none"> (注) このチェックボックスがオンのときには、ボイスメールパイロットのコーリングサーチスペースが使用されます。Unified Communications Manager は、[接続先 (Destination)] および [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] フィールドの値を無視します。 (注) 内線コールについてこのチェックボックスがオンになっている場合、外線コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスも自動的にオンになります。外線コールをボイスメールシステムに転送しない場合は、外線コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスをオフにする必要があります。 • [接続先 (Destination)] : このフィールドは、内線コールの話中転送の接続先を示します。外部の電話番号を含め、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用します。 <ul style="list-style-type: none"> (注) 内線コールの宛先の値を入力すると、外線コールの [接続先 (Destination)] フィールドにこの値が自動的にコピーされます。外線コールを別の接続先に転送する場合は、外線コールの [接続先 (Destination)] フィールドに別の値を入力する必要があります。 • [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : 話中転送 (内部) の接続先にコールを転送するため、話中転送 (内部) のコーリングサーチスペースが使用されます。これは、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。 <ul style="list-style-type: none"> (注) システムでパーティションとコーリングサーチスペースが使用される場合には、コール転送のコーリングサーチスペースを設定することが推奨されます。コール転送の接続先にコールが転送またはリダイレクトされると、設定されているコール転送のコーリングサーチスペースがコール転送に使用されます。[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] フィールドに [なし (None)] が設定されている場合、システムでパーティションとコーリングサーチスペースが使用されていると転送操作が失敗します。たとえば話中転送の接続先を設定する場合、話中転送のコーリングサーチスペースも設定する必要があります。パーティションで話中転送のコーリングサーチスペースと話中転送接続先を設定していない場合、転送操作が失敗します。 (注) 内線コールのコーリングサーチスペースを選択すると、外線コールのコーリングサーチスペース設定に、この値が自動的にコピーされます。外線コールを別のコーリングサーチスペースに転送する場合は、外線コールの [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] フィールドで別の値を選択する必要があります。 <p>ライン アピランスごとに [話中転送 (Call Forward Busy)] トリガーが設定されます。このトリガーは、ライン アピランスで設定されている最大コール数よりも大きくすることはできません。[話中転送 (Call Forward Busy)] トリガーにより、[話中転送 (Call Forward Busy)] 設定がアクティブになるまでのアクティブコールの数 (例 : 10 コール) が決定されます。</p> <p>ヒント ユーザがコールを発信して転送を実行できるようにするため、話中転送トリガーは、コール最大数よりやや少ない値にしてください。</p> <p>ヒント コールの転送先電話番号が通話中の場合、そのコールは完了しません。</p>

フィールド	説明
<p>話中転送 (Forward Busy External、外部)</p>	<p>この行のフィールドは、電話番号が通話中の場合のこの電話番号への外線コールの転送処理を指定します。[接続先 (Destination)]フィールドと[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]フィールドを使用して、コールが転送接続先にリダイレクトされます。</p> <p>次の値を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ボイスメール (Voice Mail)] : 外線コールに [ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)]ウィンドウで設定されている値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。 <ul style="list-style-type: none"> (注) このチェックボックスがオンのときには、ボイスメールパイロットのコーリングサーチスペースが使用されます。Unified Communications Manager は、[接続先 (Destination)]および[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]フィールドの値を無視します。 (注) 内線コールについてこのチェックボックスがオンになっている場合、外線コールの[ボイスメール (Voice Mail)]チェックボックスも自動的にオンになります。外線コールをボイスメールシステムに転送しない場合は、外線コールの[ボイスメール (Voice Mail)]チェックボックスをオフにする必要があります。 • [接続先 (Destination)] : このフィールドは、外線コールの話中転送の接続先を示します。外部の電話番号を含め、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用します。 <ul style="list-style-type: none"> (注) 内線コールの宛先の値を入力すると、外線コールの[接続先(Destination)]フィールドにこの値が自動的にコピーされます。外線コールを別の接続先に転送する場合は、外線コールの [接続先 (Destination)]フィールドに別の値を入力する必要があります。 • [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : 話中転送 (外部) のコーリングサーチスペースにより、話中転送 (外部) の接続先にコールが転送されます。これは、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。 <ul style="list-style-type: none"> (注) システムでパーティションとコーリングサーチスペースが使用される場合には、コール転送のコーリングサーチスペースを設定することが推奨されます。コール転送の接続先にコールが転送またはリダイレクトされると、設定されているコール転送のコーリングサーチスペースがコール転送に使用されます。[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]フィールドに[なし (None)]が設定されている場合、システムでパーティションとコーリングサーチスペースが使用されていると転送操作が失敗します。たとえば話中転送の接続先を設定する場合、話中転送のコーリングサーチスペースも設定する必要があります。パーティションで話中転送のコーリングサーチスペースと話中転送接続先を設定していない場合、転送操作が失敗します。 (注) 内線コールのコーリングサーチスペースを選択すると、外線コールのコーリングサーチスペース設定に、この値が自動的にコピーされます。外線コールを別のコーリングサーチスペースに転送する場合は、外線コールの [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]フィールドで別の値を選択する必要があります。

フィールド	説明
無応答時転送 (Forward No Answer Internal、内部)	<p>この行のフィールドは、電話番号が応答しない場合のこの電話番号への内線コールの転送処理を指定します。[接続先 (Destination)] フィールドと [コーリング サーチ スペース (Calling Search Space)] フィールドを使用して、コールが転送接続先にリダイレクトされます。</p> <p>次の値を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ボイスメール (Voice Mail)] : [ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウで設定されている値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。 <ul style="list-style-type: none"> (注) このチェックボックスがオンのときには、ボイスメールパイロットのコーリング サーチ スペースが使用されます。Unified Communications Manager は、[接続先 (Destination)] および [コーリング サーチ スペース (Calling Search Space)] フィールドの値を無視します。 (注) 内線コールについてこのチェックボックスがオンになっている場合、外線コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスも自動的にオンになります。外線コールをボイスメール システムに転送しない場合は、外線コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスをオフにする必要があります。 • [接続先 (Destination)] : このフィールドは、内線コールに回答がない場合にこのコールが転送される電話番号を示します。外部の電話番号を含め、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用します。 <ul style="list-style-type: none"> (注) 内線コールの宛先の値を入力すると、外線コールの [接続先 (Destination)] フィールドにこの値が自動的にコピーされます。外線コールを別の接続先に転送する場合は、外線コールの [接続先 (Destination)] フィールドに別の値を入力する必要があります。 • [コーリング サーチ スペース (Calling Search Space)] : 無応答時転送 (内部) 接続先にコールを転送するため、無応答時転送 (内部) のコーリング サーチ スペースが使用されます。これは、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。 <ul style="list-style-type: none"> (注) システムでパーティションとコーリング サーチ スペースが使用される場合には、コール転送のコーリング サーチ スペースを設定することが推奨されます。コール転送の接続先にコールが転送またはリダイレクトされると、設定されているコール転送のコーリング サーチ スペースがコール転送に使用されます。[コーリング サーチ スペース (Calling Search Space)] フィールドに [なし (None)] が設定されている場合、システムでパーティションとコーリング サーチ スペースが使用されていると転送操作が失敗します。たとえば無応答時転送の接続先を設定する場合、無応答時転送のコーリング サーチ スペースも設定する必要があります。パーティションで無応答時転送のコーリング サーチ スペースと無応答時転送の接続先を設定していない場合、転送操作が失敗します。 (注) 内線コールのコーリング サーチ スペースを選択すると、外線コールのコーリング サーチ スペース設定に、この値が自動的にコピーされます。外線コールを別のコーリング サーチ スペースに転送する場合は、外線コールの [コーリング サーチ スペース (Calling Search Space)] フィールドで別の値を選択する必要があります。

フィールド	説明
無応答時転送 (Forward No Answer External、外部)	<p>この行のフィールドは、電話番号が応答しない場合のこの電話番号への外線コールの転送処理を指定します。[接続先 (Destination)] フィールドと [コーリング サーチ スペース (Calling Search Space)] フィールドを使用して、コールが転送接続先にリダイレクトされます。</p> <p>次の値を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ボイスメール (Voice Mail)] : [ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウで設定されている値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。 <ul style="list-style-type: none"> (注) このチェックボックスがオンのときには、ボイスメールパイロットのコーリング サーチ スペースが使用されます。Unified Communications Manager は、[接続先 (Destination)] および [コーリング サーチ スペース (Calling Search Space)] フィールドの値を無視します。 (注) 内線コールについてこのチェックボックスがオンになっている場合、外線コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスも自動的にオンになります。外線コールをボイスメールシステムに転送しない場合は、外線コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスをオフにする必要があります。 • [接続先 (Destination)] : このフィールドは、外線コールに回答がない場合にこのコールが転送される電話番号を示します。外部の電話番号を含め、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用します。 <ul style="list-style-type: none"> (注) 内線コールの宛先の値を入力すると、外線コールの [接続先 (Destination)] フィールドにこの値が自動的にコピーされます。外線コールを別の接続先に転送する場合は、外線コールの [接続先 (Destination)] フィールドに別の値を入力する必要があります。 • [コーリング サーチ スペース (Calling Search Space)] : 無応答時転送 (外部) の接続先にコールを転送するため、無応答時転送 (外部) のコーリング サーチ スペースが使用されます。これは、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。 <ul style="list-style-type: none"> (注) システムでパーティションとコーリング サーチ スペースが使用される場合には、コール転送のコーリング サーチ スペースを設定することが推奨されます。コール転送の接続先にコールが転送またはリダイレクトされると、設定されているコール転送のコーリング サーチ スペースがコール転送に使用されます。[コーリング サーチ スペース (Calling Search Space)] フィールドに [なし (None)] が設定されている場合、システムでパーティションとコーリング サーチ スペースが使用されていると転送操作が失敗します。たとえば話中転送の接続先を設定する場合、無応答時転送のコーリング サーチ スペースも設定する必要があります。パーティションで無応答時転送のコーリング サーチ スペースと無応答時転送の接続先を設定していない場合、転送操作が失敗します。 (注) 内線コールのコーリング サーチ スペースを選択すると、外線コールのコーリング サーチ スペース設定に、この値が自動的にコピーされます。外線コールを別のコーリング サーチ スペースに転送する場合は、外線コールの [コーリング サーチ スペース (Calling Search Space)] フィールドで別の値を選択する必要があります。

フィールド	説明
カバレッジなし時転送 (Forward No Coverage Internal、内部)	<p>[接続先 (Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] フィールドを使用して、コールが転送接続先にリダイレクトされます。</p> <p>次の値を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ボイスメール (Voice Mail)] : [ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウで設定されている値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。 <p>(注) このチェックボックスがオンのときには、Unified Communications Manager は [接続先 (Destination)] および [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] フィールドの値を無視します。内線コールについてこのチェックボックスがオンになっている場合、外線コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスも自動的にオンになります。外線コールをボイスメールシステムに転送しない場合は、外線コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスをオフにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [接続先 (Destination)] : このフィールドは、電話番号を制御するアプリケーションが失敗した場合に、接続されなかった内線コールが転送される電話番号を指定します。外部の電話番号を含め、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用します。 <p>(注) 内線コールの宛先の値を入力すると、外線コールの [接続先 (Destination)] フィールドにこの値が自動的にコピーされます。外線コールを別の接続先に転送する場合は、外線コールの [接続先 (Destination)] フィールドに別の値を入力する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : カバレッジなし時転送 (内部) の接続先にコールを転送するため、カバレッジなし時転送 (内部) のコーリングサーチスペースが使用されます。この値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。 <p>(注) システムでパーティションとコーリングサーチスペースが使用される場合には、コール転送のコーリングサーチスペースを設定することが推奨されます。コール転送の接続先にコールが転送またはリダイレクトされると、設定されているコール転送のコーリングサーチスペースがコール転送に使用されます。[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] フィールドに [なし (None)] が設定されている場合、システムでパーティションとコーリングサーチスペースが使用されていると転送操作が失敗します。たとえば話中転送の接続先を設定する場合、カバレッジなし時転送のコーリングサーチスペースも設定する必要があります。パーティションでカバレッジなし時転送のコーリングサーチスペースと話中転送接続先を設定していない場合、転送操作が失敗します。</p> <p>(注) 内線コールのコーリングサーチスペースを選択すると、外線コールのコーリングサーチスペース設定に、この値が自動的にコピーされます。外線コールを別のコーリングサーチスペースに転送する場合は、外線コールの [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] フィールドで別の値を選択する必要があります。</p>

フィールド	説明
カバレッジなし時転送 (Forward No Coverage External、外部)	<p>[接続先 (Destination)] フィールドと [コーリング サーチ スペース (Calling Search Space)] フィールドを使用して、コールが転送接続先にリダイレクトされます。</p> <p>次の値を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ボイスメール (Voice Mail)] : [ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウで設定されている値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。 <ul style="list-style-type: none"> (注) このチェックボックスがオンのときには、Unified Communications Manager は [接続先 (Destination)] および [コーリング サーチ スペース (Calling Search Space)] フィールドの値を無視します。内線コールについてこのチェックボックスがオンになっている場合、外線コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスも自動的にオンになります。外線コールをボイスメールシステムに転送しない場合は、外線コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスをオフにします。 • [接続先 (Destination)] : このフィールドは、電話番号を制御するアプリケーションが失敗した場合に、接続されなかった内線コールが転送される電話番号を指定します。外部の電話番号を含め、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用します。 <ul style="list-style-type: none"> (注) 内線コールの宛先の値を入力すると、外線コールの [接続先(Destination)] フィールドにこの値が自動的にコピーされます。外線コールを別の接続先に転送する場合は、外線コールの [接続先 (Destination)] フィールドに別の値を入力する必要があります。 • [コーリング サーチ スペース (Calling Search Space)] : カバレッジなし時転送 (外部) 接続先にコールを転送するため、カバレッジなし時転送 (外部) のコーリング サーチ スペースが使用されます。この値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。 <ul style="list-style-type: none"> (注) システムでパーティションとコーリング サーチ スペースが使用される場合には、コール転送のコーリング サーチ スペースを設定することが推奨されます。コール転送の接続先にコールが転送またはリダイレクトされると、設定されているコール転送のコーリング サーチ スペースがコール転送に使用されます。[コーリング サーチ スペース (Calling Search Space)] に [なし (None)] が設定されている場合、システムでパーティションとコーリング サーチ スペースが使用されていると転送操作が失敗することがあります。たとえば、カバレッジなし時転送の転送先を設定した場合は、カバレッジなし時転送のコーリング サーチ スペースも設定する必要があります。カバレッジなし時転送のコーリング サーチ スペースが設定されていない場合、カバレッジなし時転送の転送先がパーティション内にあると、自動転送動作が失敗することがあります。 (注) 内線コールのコーリング サーチ スペースを選択すると、外線コールのコーリング サーチ スペース設定に、この値が自動的にコピーされます。外線コールを別のコーリング サーチ スペースに転送する場合は、外線コールの [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] フィールドで別の値を選択します。

フィールド	説明
[CTI障害時転送(Forward on CTI Failure)]	<p>このフィールドは、CTIルートポイントおよびCTIポートだけに適用されます。この行のフィールドは、CTIルートポイントまたはCTIポートで障害が発生した場合に、このCTIルートポイントまたはCTIポートへの外線コールの自動転送をどのように扱うのかを指定します。</p> <p>次の値を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ボイスメール (Voice Mail)]: [ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウで設定されている値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。 <p>(注) このチェックボックスがオンのときには、Unified Communications Managerは[接続先 (Destination)] および[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] フィールドの値を無視します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [接続先 (Destination)]: このフィールドは、電話番号を制御するアプリケーションが失敗した場合に、接続されなかった外線コールが転送される電話番号を指定します。外部の電話番号を含め、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用します。 • [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]: この値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[未登録内線の不在転送(Forward Unregistered Internal)]	<p>このフィールドは未登録の内部 DN コールに適用されます。コールは指定された接続先またはボイスメールに再ルーティングされます。</p> <p>(注) [サービスパラメータ設定 (Service Parameters Configuration)] ウィンドウで、[DN への最大転送未登録ホップ数 (Max Forward UnRegistered Hops to DN)] サービスパラメータに電話番号の最大転送回数を指定する必要もあります。</p> <p>このパラメータは、電話番号に対して同時に許可される最大未登録ホップ数を指定します。このパラメータは、転送ループが発生した場合に、未登録 DN が原因でコールを転送できる回数を制限します。このカウントを使用して、未登録のコール転送の外部コールの転送ループを停止します。Unified Communications Manager は、このサービスパラメータで指定された値を超えたときに、コールを終了します。</p>
[未登録外線の不在転送(Forward Unregistered External)]	<p>このフィールドは未登録の外部 DN コールに適用されます。コールは指定された接続先またはボイスメールに再ルーティングされます。</p> <p>(注) [サービスパラメータ設定 (Service Parameters Configuration)] ウィンドウで、[DN への最大転送未登録ホップ数 (Max Forward UnRegistered Hops to DN)] サービスパラメータに電話番号の最大転送回数を指定する必要もあります。</p> <p>このパラメータは、電話番号に対して同時に許可される最大未登録ホップ数を指定します。このパラメータは、転送ループが発生した場合に、未登録 DN が原因でコールを転送できる回数を制限します。このカウントを使用して、未登録のコール転送の外部コールの転送ループを停止します。Unified Communications Manager は、このサービスパラメータで指定された値を超えたときに、コールを終了します。</p>
[無応答時の呼び出し時間 (秒) (No Answer Ring Duration (seconds))]	<p>このフィールドは、無応答時転送の接続先が指定されている場合に、無応答コールをこの接続先に転送するまでに待機する時間を秒単位で指定します。このパラメータに指定する値が、[T301 タイマー (T301 Timer)] サービスパラメータに指定されている値よりも少ないことを確認してください。[無応答時転送タイマー (Forward No Answer Timer)] サービスパラメータの値が [T301 タイマー (T301 Timer)] サービスパラメータに指定されている値よりも大きい場合は、コールは転送されず、発信者はビジー信号を受信します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager の [無応答時転送タイマー (Forward No Answer Timer)] サービスパラメータに値を設定する場合は、このフィールドには何も指定しないでください。</p>

コール転送の転送先オーバーライドの有効化

コール転送の転送先オーバーライドを有効にすると、Unified Communications Manager は CFA の宛先が発信者番号と一致したときに CFA の宛先を無視します。オーバーライドは、内部コールと外部コールの両方に適用されます。

発信者番号が変換されている場合、発信者番号は CFA の宛先と一致せず、オーバーライドは発生しません。

始める前に

[その他のコール転送タイプの設定 \(13 ページ\)](#)

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[システム (System)] > [サービス パラメータ (Service Parameters)]。
[サービス パラメータの設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [クラスタ全体のパラメータ (機能 - 保留復帰 (Clusterwide Parameters (Feature - Hold Reversion))] 領域で、[CFA の宛先オーバーライド (CFA Destination Override)] サービス パラメータ値を [はい (True)] に設定します。
-

コール転送の連携動作

機能	データのやり取り
コールバック	コールバック通知画面から発信したコールは、着信側 DN で設定されているすべてのコール転送設定値をオーバーライドします。コールバック リコール タイマーが期限切れになる前にコールを発信する必要があります。このようにしないと、コールはコール転送設定値をオーバーライドしません。
コール表示の制限	接続番号表示制限は、このシステムから発信されるすべてのコールに適用されます。この値を [はい (True)] に設定すると、このフィールドは既存の Unified Communications Manager アプリケーション、機能、および呼処理と透過的に連携して動作します。この値は、システムの内部または外部で終了するすべてのコールに適用されます。接続番号表示が更新され、不在転送または話中転送の転送先にコールがルーティングされるか、コール転送または CTI アプリケーションでリダイレクトされる場合、変更された番号またはリダイレクトされた番号が表示されるようになりました。

機能	データのやり取り
サイレント	Cisco Unified IP 電話では、サイレント (DND) 機能がアクティブであることを示すメッセージがユーザに新しいボイスメッセージが届いていることを示すメッセージよりも優先されます。ただし、不在転送機能がアクティブであることを通知するメッセージが DND よりも優先されます。
外部コール制御	<p>外部コール制御はトランスレーションパターンレベルでコールを代行受信しますが、コール転送は電話番号レベルでコールを代行受信します。外部コール制御が優先されます。コール転送が起動されるコールの場合、トランスレーションパターンに外部コール制御プロファイルが割り当てられていると、Unified Communications Manager は付加ルートサーバにルーティングクエリを送信します。コール転送がトリガーされるのは、付加ルートサーバが Unified Communications Manager に Continue 義務付きの Permit 決定を送信する場合だけです。</p> <p>(注) 外部コール制御に対応した [コール転送ホップカウント (Call Diversion Hop Count)] サービスパラメータと、コール転送に対応した [コール転送コールホップカウント (Call Forward Call Hop Count)] サービスパラメータは相互に独立しており、個別に機能します。</p>
クラスタ間のエクステンションモビリティ	Cisco Extension Mobility Cross Cluster はコール転送をサポートしています。
Extend and Connect	Extend and Connect は不在転送をサポートしています。
即時転送	<p>[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウの [無応答時転送 (Forward No Answer)] フィールドが設定されていない場合、コール転送はクラスタ全体の CFNA タイマーサービスパラメータ [無応答時転送タイマー (Forward No Answer Timer)] を使用します。</p> <p>コール転送と同時にユーザが [即転送 (iDivert)] ソフトキーを押すと、コールはボイスメールではなく、割り当てられているコール転送電話番号に転送されます。これは、タイマーで設定されている時間が短すぎるためです。この状況を解決するには、CFNA タイマーサービスパラメータに十分な時間 (例: 60 秒) を設定します。</p>
論理パーティション設定	Unified Communications Manager 着信および転送デバイスに関連付けられている地理位置 ID 情報を使用して、論理パーティションポリシーチェックを実行します。この処理はすべてのコール転送に適用されます。

機能	データのやり取り
Multilevel Precedence and Preemption (MLPP)	

機能	データのやり取り
	<p data-bbox="724 296 829 321">話中転送</p> <ul data-bbox="760 344 1481 905" style="list-style-type: none"> • 必要に応じて、MLPP 対応ステーションに事前設定の優先代替パーティターゲットを設定できます。 • Cisco Unified Communications Manager は、優先コールに優先代替パーティ転送手順を適用する前に、通常の方法で優先コールを転送するため話中転送機能を適用します。 • 複数の転送コール間ではコールの優先度が維持されます。 • 着信優先コールの優先度が既存のコールの優先度より高い場合は、プリエンプションが実行されます。優先コールの転送先ステーションがコールを切断するまで、アクティブ コールのプリエンプション側に対し、連続的なプリエンプション トーンが再生され続けます。コール切断後は、優先コールの転送先ステーションに対し、優先呼び出し音が再生されます。転送先ステーションは、オフフックになるとプリエンプション コールに接続します。 <p data-bbox="724 940 878 966">無応答時転送</p> <ul data-bbox="760 989 1481 1640" style="list-style-type: none"> • 優先レベルが [プライオリティ (Priority)] 以上のコールの場合、呼処理により、転送プロセスでコールの優先レベルが維持され、転送先ユーザがプリエンプション処理されることがあります。 • 優先コールの転送先として代替パーティが設定されている場合、優先コール代替パーティタイムアウトが期限切れになった後で、呼処理により優先コールは代替パーティに転送されます。優先コールの転送先で [代替パーティ (Alternate Party)] 値が設定されていない場合、呼処理により優先コールが [無応答時転送 (Call Forward No Answer)] 値に転送されます。 • 通常、優先コールはボイスメール システムではなくユーザにルーティングされます。管理者は、優先コールがボイスメール システムにルーティングされることを防ぐため、[優先コールに標準 VM 処理を使用する (Use Standard VM Handling For Precedence Calls)] エンタープライズパラメータを設定します。 <p data-bbox="724 1675 1481 1856">着信優先コールの優先度が既存のコールの優先度以下の場合、呼処理では通常のコール転送が実行されます。優先コールの転送先ステーションがプリエンプティブ処理可能ではない場合 (MLPP が設定されていない場合) 、呼処理ではコール転送が実行されません。</p>

機能	データのやり取り
	<p>代替パーティ転送（APD）は、特殊なコール転送で構成されます。ユーザが APD に対して設定されていて、優先コールの転送先電話番号（DN）が通話中か、応答しない場合、APD が実行されます。MLPP APD は、優先コールだけに適用されます。MLPP APD コールにより、優先コールの [DN無応答時転送（DN Call Forward No Answer）] 値は無効になります。</p>
<p>通信履歴の元の着信側名</p>	<p>着信側デバイスの SIP プロファイルでのみプライバシーが設定されており、不在転送（CFA）、話中転送（CFB）、または未登録不在転送（CFUR）が有効である場合、設定されている呼び出し表示が「private」の代わりに表示されます。コール転送で「private」が表示されるようにするには、SIP プロファイルではなくトランスレーションパターンまたはルートパターンで名前表示制限を設定することが推奨されます。</p>
<p>ロールオーバー回線</p>	<p>コール転送設定を使用して、共有回線のロールオーバー回線を作成できます。コールセンターの状況によっては、これが役立つことがあります。</p> <p>ロールオーバー回線を使用すると、番号（1-800-HOTLINE など）がダイヤルされたとき、常に特定の電話回線にコールがルーティングされます。複数の電話で共有される共有回線をこれに設定することができます。回線 1 が通話中の場合にはコールは回線 2 にロールオーバーされ、回線 2 が通話中の場合にはコールは回線 3 にロールオーバーされます。回線 2 または 3 は、回線 1 が通話中の場合にのみ使用可能です。</p> <p>次のように話中転送の設定とビジー トリガーを使用すると、このタイプのコール機能が可能になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 回線 1 で [ビジー トリガー（Busy Trigger）] を 1 に設定し、[話中転送（Call Forward Busy）] をチェーンの 2 番目の回線に設定します。 • 回線 2 で [ビジー トリガー（Busy Trigger）] を 1 に設定し、[話中転送（Call Forward Busy）] をチェーンの 3 番目の回線に設定します。 • 必要に応じて任意の数の回線でこの設定を行います。
<p>セキュア トーン</p>	<p>保護されている電話では不在転送がサポートされています。</p>
<p>セッション ハンドオフ</p>	<p>ユーザがコールを切り替えると、新しいコールがデスク フォンに表示されます。デスクフォンが点滅している場合、デスクフォンでは切り替えたコールに対する不在転送がトリガーされません。</p>

コール転送の制約事項

機能	制約事項
通話転送	<ul style="list-style-type: none"> • Unified Communications Manager または Cisco Unified Communications セルフケア ポータルで不在転送がアクティブになった場合、Unified Communications Manager は CFA ループを防止しません。 • Unified Communications Manager 不在転送ループを防止するのは、CFA が電話からアクティブにされている場合、不在転送コールのホップ数が、[転送の最大ホップ数 (Forward Maximum Hop Count)] サービスパラメータに指定されている値を超えている場合、および転送チェーン内のすべての電話で (CFB、CFNA、およびその他のコール転送オプションではなく) CFA がアクティブになっている場合です。 たとえば、電話番号 1000 のユーザが電話番号 1001 に不在転送し、電話番号 1001 では CFB と CFNA が電話番号 1002 に設定されており、電話番号 1002 では CFA が電話番号 1000 に設定されている場合、Unified Communications Manager ではコールが発信されます。これは、電話番号 1002 が、電話番号 1001 の (CFA ではなく) CFB および CFNA 接続先として動作するためです。 • ボイスメールシステムに不在転送する場合は、コールバックをアクティブにできません。 • [即転送 (iDivert)] ソフトキーを押すと、[不在転送タイムアウト (Forward No Answer Timeout)] に関連する一般的ではない状態が発生します。たとえば、無応答時転送タイムアウト直後にマネージャが [即転送 (iDivert)] ソフトキーを押すと、コール転送によりコールが事前に設定されている電話番号に転送されます。ただし、無応答時転送タイムアウト前にマネージャが [即転送 (iDivert)] ソフトキーを押すと、即時転送によりコールがマネージャのボイスメールに転送されます。
即時転送	不在転送 (CFA) と話中転送 (CFB) がアクティブになっている場合、システムは即時転送をサポートしません (CFA と CFB が即時転送より優先されます)。
インターコム	インターコム コールを転送することはできません。

機能	制約事項
ハントグループからのログアウト	<p>SIP を実行している電話（7906、7911、7941、7961、）がハントグループにログインしていて [不在転送（Call Forward All）] がアクティブになっている場合、コールは SIP を実行している電話に表示されます。</p> <p>SIP を実行する 7940 および 7960 IP フォンがハントグループにログインし、不在転送がアクティブな場合、この電話はスキップされ、回線グループの次の電話が呼び出されます。</p>
論理パーティション設定	<p>論理パーティション分割は、次の状況では行われません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 発信者と転送されたデバイスの両方が Voice over IP（VoIP）電話の場合。 • 地理位置情報または地理位置情報フィルタがどのデバイスにも関連付けられていない場合。
Multilevel Precedence and Preemption（MLPP）	<p>Multilevel Precedence and Preemption（MLPP）による補足サービスのサポートにより、コール転送に関する次の制約事項が指定されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 着信 MLPP コールの不在転送（CFA）サポートにより、MLPP 代替パーティ（MAP）ターゲットが設定されている場合には、着信側の MAP ターゲットにコールが常に転送されます。設定が誤っている場合（MAP ターゲットが指定されていない場合）、コールは拒否され、発信側にリオーダー音が聞こえます。 • 着信 MLPP コールの無応答時転送（CFNA）サポートにより、コールは CFNA ターゲットに 1 回転送されます。MAP ターゲットが設定されている場合、最初のホップの後にコールに対する応答がないと、コールは元の着信側の MAP ターゲットに転送されます。設定が誤っている場合（MAP ターゲットが指定されていない場合）、コールは拒否され、発信側にリオーダー音が聞こえます。 • 着信 MLPP コールの話中転送（CFB）サポートにより、設定されている転送ホップの最大数までコールが転送されます。MAP ターゲットが設定されている場合、最大ホップ数に達すると、コールは元の着信側の MAP ターゲットに転送されます。設定が正しくない場合（つまり、MAP ターゲットが指定されていない場合）、コールは拒否され、発信側ではリオーダー音が聞こえます。

機能	制約事項
コール転送を使用したコール転送の分類	<p>コールが転送されると、コールの分類では、元のレグではなく、転送されたレグの分類が行われます。次に例を示します。</p> <ul style="list-style-type: none">• PSTNからの着信コールは、受付によって受信されます。これは外部コールです。• 受付は内線3100にコールを転送します。これで、転送されたコールは内部コールになります。• 内線3100のユーザは話中ですが、外部コールを受付に送信するように外部転送が設定されています。ただし、コールは2番目のレグ（内部）の分類によって行われるため、コールはボイスメールに転送されます。